

会 議 録

会議録	令和5年度 第2回 豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) 基幹バス、地域バス等の運賃体系の変更について</p> <p>【報告案件】</p> <p>(1) 上郷地域バスにおける運行車両の追加（実証）について</p> <p>(2) 香嵐渓渋滞対策における令和4年度の実績報告及び令和5年度の実績について</p> <p>(3) 豊田市地域公共交通計画の指標及び今後の取組について</p> <p>4 連絡事項</p> <p>・次回会議の開催予定について 令和5年12月20日（水）</p> <p>5 閉会</p>
日 時	令和5年8月21日（月） 午後2時00分～午後3時30分
場 所	豊田市役所 東庁舎7階 大会議室3、4
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】 松本 幸正 (名城大学)【座長】</p> <p>宮川 高彰 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官) (代理 本田)</p> <p>増岡 浩仁 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課長)</p> <p>田中 齊 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課長)</p> <p>三浦 貴大 (愛知県警察足助警察署交通課長)</p> <p>鈴木 学 (豊田市 副市長)【会長】</p> <p>加藤 昭男 (豊田市都市整備部部長)</p> <p>安藤 広重 (社会福祉法人豊田市社会福祉協議会常務理事)</p> <p>勝野 隆 (豊田市高齢者クラブ連合会副会長)</p> <p>國枝 和行 (豊田市 PTA 連絡協議会事務局指導主事)</p> <p>吉村 一孝 (豊田商工会議所専務理事)【副会長】</p> <p>大竹 宏 (愛知県タクシー協会豊田支部長)</p> <p>小林 裕之 (公益社団法人 愛知県バス協会専務理事) (代理 徳田)</p> <p>大橋 成和 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事)</p> <p>花村 元気 (名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長)</p> <p>大野 淳 (名鉄バス株式会社運輸本部首席交通企画官)</p> <p>横田 太 (豊栄交通株式会社専務取締役)</p> <p>寺澤 秀樹 (愛知環状鉄道株式会社運輸部次長兼企画管理課長) (代理 藏地)</p>

	<p>【事務局】 豊田市 都市整備部 交通政策課 地域振興部 上郷支所</p>
<p>資 料</p>	<p>1. 次第 2. 令和5年度 第2回 豊田市公共交通会議 会議資料</p>

【協議案件】

(1) 基幹バス、地域バス等の運賃体系の変更について

○事務局 【協議1】に基づき説明。

○委員 利用者への情報発信については、どのように行う予定でいるか。

○事務局 みちなびとよた等を通じて周知を行う。

○座長 名鉄バスについては、周知をどのように行う予定でいるか。

○委員 ホームページへの掲載を通じて、情報発信に取り組む。また、カスタマーセンターで問合せ等についても対応していく。

○座長 旭地域バス、足助地域バスの回数券の記載について、一部分かりづらい点があるため、修正するようにお願いしたい。

○事務局 承知した。

<協議結果：全員承認>

【報告案件】

(1) 上郷地域バスにおける運行車両の追加（実証）について

○事務局 【報告1】に基づき説明。

○委員 現在の利用状況について、他自治体と比較してどのような評価をしているか。また、火曜・金曜の週2日の運行により、利用者が集中しているのだとしたら、運行台数を増やすのではなく、運行日数を増やす方が有効なのではないか。

○事務局 利用状況の評価については、運用や地域差により一概に他市と比較することはできな

いが、以前の定時定路の運行と比較すると収支率などは改善されており、概ね良好だと考える。また、予約が集中している時間帯はデータから明らかであり、まずはその課題を解決するために運行日を増やすのではなく、予約が集中している時間帯のみ台数を増やすのが有効だと考えている。

- 委員 予約不成立解消に向けて、乗合せ率を高めるという考えや取組はあるか。
- 事務局 現状の乗合せ率は1.7人くらいであり、更に乗合せ率を高めるためシステム管理をしているアイシンと検討していることに加え、午前中の予約を午後に誘導するために、午後に乗車するとお得になるキャンペーンを実施している。
- 座長 運用や案内の工夫を通じて、利便性の向上に取り組んでもらいたい。
- 事務局 承知した。
- 委員 運行台数を増やすことで、ドライバー不足等運行事業者の負担が増加すると考えられるが、調整はできているのか。
- 事務局 現時点では、支障は出ない範囲であると運行事業者に確認がとれている。

(2) 香嵐渓渋滞対策における令和4年度の実績報告及び令和5年度取組について

- 事務局 【報告2】に基づき説明。
- 委員 渋滞解消に向けて抜本的な対策を打ち出すということで昨年度会議を進めたが、令和5年度取組は、そのようには見受けられないが、どのようにお考えか。
- 事務局 シャトルバス等調整を進めていたが、ラリー開催に伴う車両の不足や、運行事業者の慢性的な乗務員不足により、今年度は見送ったが、引き続き調整を続ける。今回は、看板の設置やGoogleマップへのアラート掲載による自家用車の誘導に取り組むことで、渋滞発生回避に努め、おいでんバスが滞りなく運行できるよう努める。
- 座長 運行事業者や地元との調整等、難しいことは承知しているが、将来のあるべき姿に向けて中長期的に取り組む必要があると考える。
- 委員 利用者からの意見や苦情はどのようなものがあつたのか。
- 事務局 当課には、バスが満車で乗ることができなかった、渋滞により香嵐渓のライトアップに間に合わなかった等の意見が寄せられた。その他当日の香嵐渓周辺では、駐車場への誘導や渋滞について、直接誘導員に意見されていたり、支所や観光協会へも直接苦情が寄せられていたりする。
- 委員 SNSへのバスに関する書き込みについても意見が載っているため、参考にしてもらえればと思う。
- 事務局 情報収集を行って参考にする。
- 委員 かつて行われていたが廃止になってしまった渋滞対策について、改めて検討する余地があると思う。
- 座長 現在の状況を踏まえて、実施できそうな対策があるようなら、今年度以降の実施に向けて取り組んでもらいたい。
- 事務局 観光地であることから渋滞解消に前向きな人と、そうでない人が出てくると考えられるが、時間をかけて双方の理解を得ながら、取り組んでいく。
- 座長 30分以上の慢性的な遅延を改善していけるよう、今後も継続して取り組んでもらいたい。
- 事務局 承知した。

(3) 豊田市地域公共交通計画の指標及び今後の取組について

○事務局 【報告3】に基づき説明。

○委員 鉄道の利用者について、通学利用者は概ね回復しているが、通勤利用者はコロナ以降テレワーク等勤務形態が多様化したことに伴い、回復しきっていない。おそらく今後も戻りきることはないのではないか、と考える。

○委員 バス利用者についても同様で、通勤利用者がコロナ前と比べて減少している。

○委員 利用者増加に向けては、新規のバス利用者を発掘することが今後必要になってくると考える。

○座長 利用状況やコロナ以降の回復状況等を鑑みて、必要であれば適宜1日あたりの公共交通利用者数の目標人数を見直すように。

○事務局 承知した。

以上